

鬱陵島・独島(竹島) 歴史研究

著者 | 宋炳基 訳者 | 朴炳涉

韓国でもっとも信頼されている歴史論集
日韓で長年懸案となっている独島(竹島)問題。
この領土問題解決のためには、
その歴史をひもとかねばならない。

新幹社

定価: 本体価格 3,800円+税

訳者序文

竹島＝独島は韓国民にとって国民感情を爆発させるダイナマイトのような存在です。そうまで韓国民が竹島＝独島にこだわる理由は、同島が歴史的に日本帝国主義の最初の犠牲地であったと理解しているからです。したがって、韓国の主張や韓国民の心情を理解するためには、何よりも同島の歴史を知ることが必要です。

そうした重要性にもかかわらず、これまで竹島＝独島および同島と密接不可分の関係にある鬱陵島の歴史に関し、韓国の学術書は日本に一冊も紹介されませんでした。わずかに内藤浩之氏が本書の原本の第1版にあたる『鬱陵島と独島』のほんの一部を5～10年前に翻訳され、鳥取短期大学『北東アジア文化研究』に掲載されました。その内容の充実ぶりから原書の全文翻訳が早くから切望されていました。今回、それが韓国国際交流財団の支援を得て実現の運びになったのは欣快にたえません。

原書の『鬱陵島と独島』は、初版が1999年に発刊されて以来、韓国で権威ある学術書としてロングセラーになりました。著者の宋炳基氏は、韓国では竹島＝独島問題の長老的な存在とされる研究者ですが、現在も竹島＝独島研究の最前線で活躍され、多くのすぐれた研究業績を残しつつあります。その碩学が執筆された『鬱陵島と独島』は、多くの研究論文に引用されるなど高い評価を受けてきました。

その後、原書は2回改訂され、2007年には第3版に相当する『再訂版 鬱陵島と独島』が出版されました。本書は、その第3版をさらに改訂した未刊の原稿を翻訳したものであり、韓国に先がけて出版することになりました。改訂により分量が増えたため、紙幅の関係から原書にある年表は割愛せざるを得ませんでした。

本書の構成は、第1章から第7章までが竹島＝独島および鬱陵島の歴史を記した本論であり、第8章は特に竹島＝独島領有権に関する著者の最新の見解を特集したものです。したがって、竹島＝独島領有権論争のみに興味をお持ちの

本書は「韓国国際交流財団」の出版補助事業の支援を受けて発刊されました。

方は、第8章を読むだけで著者の見解を手軽に知ることができます。

本書の翻訳にあたって、読みやすさを考慮して旧漢字は新漢字に置きかえました。また、日本の読者にわかりにくい韓国特有の語には訳注を付けました。また、文章は自然な流れになるよう、著者の了解を得て部分的に文の入れ替えなどをおこないました。本書が竹島＝独島問題の基本的な理解に寄与することを期待します。

2009年8月18日

朴 炳 涉

日本語版への著者序文

このたび、拙著『再訂版 鬱陵島と独島』（檀国大学校出版部、2007）の改訂版が日本で出版されることになり感無量です。

私が学問的に鬱陵島と独島に関心を持ち始めたのは1970年代末でした。それから20余年過ぎた1990年代末に『鬱陵島と独島』（同、1999）を発刊しました。それまでに発表した主要論文を時代順に配列整理したものでした。それから6年後、同書を修正・補完した『改訂版 鬱陵島と独島』（同、2005）を出版し、最近『再訂版 鬱陵島と独島』（同、2007）を出版しました。

再訂版は目次に明示しませんが、鬱陵島と独島の歴史を（1）伝統時代、（2）近代に大別しました。（1）では古代・高麗時代、朝鮮初期の鬱陵・于山島経営や、安龍福の活動と鬱陵島争界（竹島一件）、鬱陵島搜討制度の確立、鬱陵・于山二島説の定着などを、（2）では檢察使の派遣や開拓、地方官制編入、日本による「リヤンコ」島の領土編入などを扱いました。

これらは直接であれ、間接であれ、すべて日本や日本人と深い関連があります。それだけに私は民族的な感情を抑え、客観的、学問的な立場で接するよう努力しました。至らない点は読者の叱正を望んでやみません。

本書の翻訳を担当されました朴炳涉氏は、韓国語・日本語に堪能であるばかりか、独島問題の専門家として多くの論文や著書を発行されておられる第一線の研究者です。こうした方に翻訳をお願いできたことは光栄であり、その労苦に感謝する次第です。

おわりに、出版を快諾された新幹社の高二三社長にこの場を借りて感謝の意を表します。

2009年7月

著 者

豊鉉・田光鉉両教授にも感謝の言葉を捧げたい。また、コンピューター入力作業を担当された高麗大史学科博士課程の朴性淳君、校正を担当された檀国大史学科博士課程の呉蓮淑さんにも感謝の意を表したい。

最後に厳しい財政状況の中で巨額の出版補助金を支援して下さった檀国大
学校当局の皆さん、本書を東洋学叢書第3集に選定して下さった東洋学
研究所の金相培所長、出版を快諾された出版部の崔宇一部長や出版を手伝っ
ていただいた部員の皆さんにも感謝の言葉を捧げる。

1999年2月

著者

目次

訳者序文	3
日本語版への著者序文	5
再訂版（原書）序文	6
改訂版（原書）序文	8
初版（原書）序文	9
第1章 古代・高麗・朝鮮初期の于山・武（鬱）陵島経営と朝鮮 初期地理志の二島認識	17
I. 古代・高麗時代の経営	17
II. 朝鮮初期——空島政策	24
III. 東海新島説の台頭	28
第2章 安龍福の活動と鬱陵島争界（1）	37
I. 安龍福の日本被拉	37
II. 釜山での交渉	47
III. 幕府の竹島（鬱陵島）渡海禁止令	51
第3章 安龍福の活動と鬱陵島争界（2）	65
I. 安龍福の日本密航	65
II. 呈文と功過	69
III. 争界の妥結	76
第4章 鬱陵島捜討制度の確立と地理的知見の拡大	89
I. 鬱陵島捜討制度の確立	89
II. 地理的知見の拡大	95
第5章 検察使の鬱陵島派遣と開拓	109
I. 明治政府初期の鬱陵島・独島認識	109
II. 検察使 李奎遠の派遣	117

III. 明治政府の日本人鬱陵島渡航禁止と刷還	125
IV. 開拓と捜討制度の廃止	129
第6章 鬱陵島の地方官制編入と石島	141
I. 日本人の鬱陵島侵入	141
II. 視察委員 禹用鼎の派遣	147
III. 地方官制編入	153
IV. 石島の解釈	160
第7章 日本の「リヤンコ」島領土編入と沈興澤報告書	169
I. 日本の鬱陵島侵略	169
II. 日本の「リヤンコ」島領土編入	173
III. 沈興澤報告書	183
第8章 独島領有権エッセンス	195
I. 于山国と于山・武（鬱）陵二島説	195
1. 于山国	195
2. 于山・武（鬱）陵二島説の台頭、定着、動揺	197
3. 于山・武（鬱）陵二島説の再定着	200
II. 安龍福の活動と鬱陵島争界（竹島一件）	205
1. 安龍福の日本被拉——争界の始まり	205
2. 幕府の竹島（鬱陵島）渡海禁止令	209
3. 安龍福の日本密航と活動	214
4. 鬱陵島争界の妥結	219
III. 日本太政官右大臣の竹島（鬱陵島）・松島（于山島・独島）の版図外宣言及び大韓帝国の版図再確認	220
1. 太政官右大臣の指令	220
2. 明治政府の日本人鬱陵島渡航禁止と刷還	224
3. 光武4年勅令第41号	228
IV. 日本の「リヤンコ」島領土編入と沈興澤報告書	231
1. 日本の「リヤンコ」島領土編入	231
2. 沈興澤報告書	235
3. 鬱島郡于山島	239

付録 初出一覧	243
参考文献	244
索引（単語索引、用語解説索引）	249

図版目次

〔図版1〕 『世宗実録』(1454, 端宗2) 地理志 江原道 蔚珍県 (国史編纂委員会影印、1956) ——	20
〔図版2〕 安禱將 (安龍福) の号牌 (1690)、表・裏面——	40
〔図版3〕 朴於屯の号牌 (1690)、表・裏面——	41
〔図版4〕 申景濬『疆界考』(1756) 鬱陵島——	96
〔図版5〕 『東国文献備考』(1770)「輿地考」13、関防3、海防1、東海蔚珍——	100
〔図版6〕 日本内務省「日本海内竹島外一島地籍編纂方伺」明治10(1877)年3月17日、および太政官右大臣 岩倉具視の指令、明治10(1877)年3月29日 (日本国立公文書館所蔵) ——	113
〔図版7A〕 「磯竹島略図」、日本内務省「日本海内竹島外一島地籍編纂方伺」明治10(1877)年3月17日所収 (日本国立公文書館所蔵) ——	115
〔図版7B〕 「磯竹島略図」拡大図、磯竹島 (鬱陵島)・松島 (竹島=独島) 付近 ——	116
〔図版8〕 光武4年勅令第41号「鬱陵島を鬱島と改称し、島監を郡守に改正する件」光武4(1900)年10月25日——	158
〔図版9〕 竹島 (独島) 領土編入に関する日本内閣決定文、明治38(1905)年1月28日 (日本国立公文書館所蔵) ——	175
〔図版10〕 江原道観察使署理春川郡守 李明来の号外報告書、光武10(1906)年4月29日、及び参政大臣の指令第3号、光武10(1906)年5月20日 (各観察道案) ——	185

宋炳基 (ソンピョンギ)

学歴

1961.3.25 : 高麗大学校 文理科大学 史学科 卒業

1964.2.25 : 高麗大学校 大学院 史学科 修了

1985.2.25 : 高麗大学校 大学院 文学博士

経歴

1962.9.27 ~ 1967.4.30 : 国史編纂委員会 編史主事、編史官補

1967.5.1 ~ 1999.2.28 : 檀国大学校 史学科 専任講師、助教授、副教授、教授

1982.3.1 ~ 1983.2.28 : 韓国精神文化研究院 首席研究員

1991.9.1 ~ 1993.8.31 : 檀国大学校 人文大学長

1994.9.1 ~ 1997.12.31 : 檀国大学校 附設 東洋学研究所長

1999.8.1 ~ 2009.5 現在 : 檀国大学校 人文学部 名誉教授

主な著書

『近代韓中関係史研究』檀国大学校出版部、1985

『韓国人の対米認識』(共著)、民音社、1994

『鬱陵島と独島』檀国大学校出版部、1999

『独島領有権資料選』翰林大学校出版部、2001

『韓国、米国との出会い——対米開国史論』コズウォン、2005

朴炳涉 (パクピョンソビ)

竹島=独島問題研究ネット代表。

主な著書

『安龍福事件に対する検証』(韓・日語) 韓国海洋水産開発院、2007。

『竹島=独島論争』(共著) 新幹社、2007 (韓国語版既刊、英語版近刊予定)。

『姜徳相先生古希・退職記念、日朝関係史論集』(共著) 新幹社、2003。

連絡先 : half-moon@muj.biglobe.ne.jp

*本書は2009年10月10日に刊行された『竹島(独島)・鬱陵島歴史研究』と同じ本です。

鬱陵島・独島(竹島) 歴史研究

定価 : 本体価格 3,800 円 + 税

2009年11月20日 第1刷発行

著者 © 宋炳基

訳者 朴炳涉

発行者 高二三

発行所 有限会社 新幹社

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-12

電話 03-5689-4070 FAX 03-5689-2988

振替 00170-3-26306

装丁 / KARMS (崔起明)

本文印刷 / アンディー 装本印刷 / 富士見印刷 製本 / 協栄製本

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

Printed in Japan